

研究報告 5

速読力・表現力を高める指導方法

ーオーバーラッピングとシャドーイングを取り入れた授業実践ー

愛知県立一宮高等学校 教諭 豊島 澄子

1 はじめに

本校には普通科とファッション創造科があり、普通科はほぼ全員が大学に進学し、ファッション創造科も短期大学、専門学校を含めて9割以上の生徒が進学している。また、文部科学省から平成15年度と平成20年度にそれぞれ5年間のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の研究指定を受け、科学技術教育を重視した教育課程になっている。

学習指導については、より深く濃い授業となるように65分授業を行うとともに、授業への集中と家庭での予習・復習を徹底している。英語科で特徴的なこととしては、SSHの一環として、第2・3学年の理系で科学に関する英語の読み物を読んだり、英語の講演を聞いたりする授業を行い、発展的な学習ができるよう工夫をしていることである。

2 生徒の実態

(1) 本校普通科生徒の授業に対する意識

本校普通科第1学年2クラス80人に対して平成24年7月にアンケートを行った。

質問1 授業で重点をおいてほしいことは何ですか。

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| ① 英語を聞くこと | 4人 (5.0%) |
| ② 英語を話すこと | 22人 (27.5%) |
| ③ 英語を読むこと | 3人 (3.8%) |
| ④ 英語を書くこと | 5人 (6.3%) |
| ⑤ 英語を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことをバランスよく | 46人 (57.5%) |

質問2 授業で英語でのコミュニケーション能力を身に付けたいと思いますか。

- | | |
|-------------|-------------|
| ① そう思う | 54人 (67.5%) |
| ② ややそう思う | 23人 (28.8%) |
| ③ あまりそう思わない | 3人 (3.8%) |
| ④ 全くそう思わない | 0人 (0.0%) |

質問3 高校での英語の授業でスピーチをしたいですか。

- | | |
|-------------|-------------|
| ① そう思う | 7人 (8.8%) |
| ② ややそう思う | 19人 (23.8%) |
| ③ あまりそう思わない | 43人 (53.8%) |
| ④ 全くそう思わない | 11人 (13.8%) |

アンケートの結果によると、英語の授業で重点を置いてほしいこととして、約6割の生徒が「英語を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことをバランスよく」と答え、約3割の生徒は「英語を話すこと」と回答している。英語でのコミュニケーション能力を身に付けたいと思っている生徒は9割を超えている。一方、授業でスピーチをしたいかという質問に対しては、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて約3割の生徒が肯定的な回答をしている。

(2) 授業改善の方向性

生徒のコミュニケーション能力を育成するという新学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒の実態に合った授業改善を進めることが重要である。生徒の希望である「英語を話すこと」を含めた表現の能力を伸ばし、同時に理解の能力もバランス良く向上させるための手だてが必要である。

3 研究の目的

音声CDを活用し、音読を重視した授業実践を以前より行っているが、平成17年度の調査(豊島『リーディングの授業における音読に関する研究ーリスニング力・速読力の育成を主眼においてー』平成17年度愛知県総合教育センター県立学校長期研修研究報告書)において、音読によく取り組んでいる生徒及び意味の切れ目や発音を意識するなど音読のレベルが高い生徒は、黙読のスピードが速くなり、リスニングにも効果があるということが報告された。これを踏まえて、音読を中心とした単元構想に基づく授業実践により、生徒が英語でコミュニケーションを図るための能力を段階的に高めたい。

【目指す生徒像】：英語の音読に積極的に取り組み、速読ができるとともに、英語による自己表現にも意欲的な生徒

4 研究の仮説

研究の目的を達成するために、次のような仮説を立て検証することにした。

仮説1：シャドーイングなどの音読練習の方法を工夫すれば、英文を速読できるようになるだろう。
仮説2：スピーチなどの言語活動を生徒が取り組みやすいように工夫すれば、英語による自己表現ができるようになるだろう。

5 研究の方法

本校普通科第1学年生徒を対象に、英語Iの授業において以下の方法で実践することとした。

(1) 黙読・音読指導の工夫…**手だてA**

- ア 音読レベルプリントによる、音読のねらいの理解(資料1)
- イ 黙読と所要時間の計測(資料2)
- ウ ワードハント(資料2)
- エ オーバーラッピング
- オ シャドーイング
- カ 逐次通訳

(2) 自分の考えを伝え合う言語活動の工夫…**手だてB**

- ア 1分間スピーチとQ-A(資料3, 4)
- イ 授業についての感想文(資料5)
- ウ 新出表現を活用した作文(資料5)

(3) アンケートによる生徒の変容の把握

- ・ 単元終了後にアンケートを実施し、その結果を分析する。

(4) 単元構想

1 単元名 Lesson 6 Do It Now or Later			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 理解できないことや未知の語句があっても、推測するなどして読み続ける。 他の生徒の発表を聞いて、質問に積極的に答える。 授業の感想を英語で簡潔に書く。 習った表現を使って身近なことを英語で簡潔に書いて、聞き手に分かりやすく伝える。 登場人物の言動やその言動の理由を捉えることを通じ、概要や要点を理解する。 他の生徒の発表を聞いて正しく理解し、質問に答える。 関係代名詞非制限用法、形式主語 It is 形容詞(名詞) that SV, 同格の that を理解する。 			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 理解できないことや未知の語句があっても、推測するなどして読み続けている。 他の生徒の発表を聞いて、質問に積極的に答えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の感想を英語で簡潔に書くことができる。 習った表現を使って身近なことを英語で簡潔に書いて、聞き手に分かりやすく伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の言動やその言動の理由を捉えることを通じ、概要や要点を理解することができる。 他の生徒の発表を聞いて正しく理解し、質問に答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞非制限用法、形式主語 It is 形容詞(名詞) that SV, 同格の that を理解している。
4 単元の概要と言語活動			
<p>本単元は、高校生のユキが、先生からもらった質問を読み、優先順位の決め手は何なのかについて考える話である。</p> <p>本文の内容を黙読、音読、授業の解説、シャドーイング等を通して理解し、最終的には、生徒自身の場合に当てはめて、本文の内容を使って表現できる力を養う。</p>			
5 単元の指導計画 (全5時間) ※1時間:65分			
	学 習 活 動 (生徒)	言語活動に関する指導上の留意点 (教師)	
第1次 (1)	<p>【1分間スピーチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当てられた生徒が1分間スピーチをする。 スピーチ生徒自身が2～3問、スピーチについての質問をするので、他の生徒はその質問に答える。 生徒自身が次の生徒を当てる。 <p>【イントロダクション】</p> <ul style="list-style-type: none"> パート全体を黙読し、読むスピードを計る。 ワードハント:本文中の新出単語、キーワードなどの意味を書いたプリントに該当の英単語を書きだす。 	<ul style="list-style-type: none"> 難しい単語などを使った場合は適宜板書し、生徒の理解の手助けをする。 質問がうまくできないときは手助けする。手だてB 文脈より単語の意味を類推させる。手だてA 	

<p>第2次 (3.5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーラッピング（パート全体）をする。 ・章末の Comprehension に答えさせ、答え合わせをする。 【1分間スピーチ】 ・第1次と同様に行う。 【Part1～4の内容理解】 ・本文をオーバーラッピングする。 ・脚注のQ-Aに答える。 ・各パートのあらすじを答える。 ・段落ごとの1行要約をする。 ・本文の内容を理解する。ここで必要に応じて単語の読みを行ったり、文を教員の後に続いて読ませたりする。 ・本文をCDとオーバーラッピングする（できる生徒はこの段階で教科書を閉じてシャドーイング）。 ・教科書を閉じてシャドーイングする。 ・教員が日本語を言い、生徒がその英語を言う（逐次通訳）。長い文は途中で区切ることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違えても、ついていけなくてもそのための努力をさせる。 手だてA ・曖昧に読んでいた単語の適切な読み方を覚えさせる。 手だてA ・内容理解前よりうまく読めているか確認させる。 手だてA
<p>第3次 (0.5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パート全体を黙読し、読むスピードを計る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容理解前と読むスピードがどの程度速くなったのか把握させる。 手だてA
<p>終了後 宿題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【自分の考えの発表】 ・本文を読み終えた感想や自分の考えを書いてまとめる。 ・新出単語や表現を使った例文を5文以上作る。 	<p>手だてB</p>

6 学習活動と新学習指導要領との関連

- 授業の感想を英語で簡潔に書くことができる。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (コミュニケーション英語 I 2 (1))

- 習った表現を使って身近なことを英語で簡潔に書いて、聞き手に分かりやすく伝えることができる。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (コミュニケーション英語 I 2 (1))

6 研究の実際と考察

(1) 黙読・音読指導

年度当初の授業で、音読レベルプリント（一宮高p. 10 資料 1）を使用して、音読の大切さを説いた。そして、毎回の授業ごと、そして家庭での復習時に記録が取れるようにして、生徒の音読の力を把握させている。

各課の最初に黙読の速度を測り、プリント（一宮高p. 11 資料 2）に記入させている。15 分ほど時間を取っているが、大半の生徒は 10 分以内で読めるので、残りの時間をワードハントに取り組みさせている。「速度を測る」と言われると、気持ちが焦ってしまい、目を通すだけで「読んだ」という気になってしまう生徒もいるが、ワードハントに取り組みさせることでそれを防ぐ意味も込めている。また、生徒はこのプリントを絶えず手元に置いているため、各課が終わったあとにもう一度黙読の速度を測る際もすぐに比較をすることができる。

各課全体で読む（黙読・音読ともに）回数はおおむね以下のとおりである。「全体の」と記していないものについては各パートごとの回数を示す。

読み方	回数	目的・留意点
全体の黙読	1 回	黙読の速度を測る
全体のオーバーラッピング	1 回	英語のスピードに慣れる
オーバーラッピング	1 回	授業の最初にそのパートに慣れるため
重要な言語表現の Read and Repeat	2 回	発音を確認し、教師に続いて繰り返すことで表現を覚える
オーバーラッピング	1 回	理解できているか確認するため（できる生徒にはこの段階でシャドーイングさせる）
シャドーイング	1 回	教科書を閉じ、聞いてどれだけ英語が再現できるかを確認する
日本語→英語の逐語通訳	1 回	日本語を聞いて英語が再現できるかを確認する
全体の黙読	1 回	最初と最後でどの程度黙読のスピードが上がったか知る

(2) 自分の考えを伝え合う言語活動

ア 1 分間スピーチ

各授業の最初に毎回 1 分間スピーチを行っている。年度当初にプリント（一宮高p. 12 資料 3）を配布し、スピーチ作成上の条件を説明した。「1 週間以内に新しく習った単語または表現を 3 個以上使うこと」という条件を付けることで、授業で習った表現を実際に応用できるよう工夫してある。一方的にスピーチをするだけでなく、内容に関する質問を 2～3 問発話者がするために、聞く生徒たちは一生懸命聞くことができるし、話し手が使った新しい表現を理解しているか把握することもできる。スピーチ原稿記入用プリントは資料 4（一宮高p. 13）のとおりとした。生徒のスピーチ例を右に示す。下線部が条件に合った表現の使用箇所である。

【生徒のスピーチ例】（誤りはそのままにしてある）

I'll talk about my trouble these days. It's about a meal. There is a small vegetable garden in my house. Now, my mother brings ups a bitter gourd there. Bitter gourd is green and made in Okinawa. According to the name, it is very very bitter. The other day, large rain fell. So I had expected that it died. Instead, I was surprised that it grew very big. Unfortunately, it comes out to dinner every day. This is my trouble. I am tired of fried bitter gourd.

Q1 What is a bitter gourd called in Japanese?
 Q2 What is my trouble these days?
 Q3 Who brings up a bitter gourd?

イ 授業の感想

各課が終わった後、授業の感想文を英語で書かせている（一宮高p. 14 **資料5**）。高校に入学した当初は、英語の授業の進め方の感想を書いている生徒も多かったが、次第に内容についての感想を書く生徒が増えてきた。現在のところ、課題として取り組ませている。

ウ 新出表現を活用した作文

「イ 授業の感想」と同じプリント（**資料5**）を用いて、習った単語・表現を用いて身の回りの出来事を全員に書かせている。単語や表現は覚えることが大切なのはもちろんではあるが、コミュニケーションを図るためには、覚えたものを使えなければいけない。これも生徒たちは喜んで書いている。中にはこの項目を使って一つの話にしてしまう生徒もいる。

(3) アンケート結果

9月下旬と10月中旬の2回、担当している英語Iの2クラスの生徒（80人）にアンケートを取った。アンケート1は77人、アンケート2は79人が回答した。

【アンケート1】

質問1 音読をしていますか。

- | | |
|--------------------------|-------------|
| a. 学校でも家でも普段からする | 4人 (5.2%) |
| b. 学校ではするが家ではテスト前のみ | 41人 (53.2%) |
| c. 学校ではするが家ではめったにしない | 25人 (32.5%) |
| d. 学校でもサボリ気味 | 2人 (2.6%) |
| e. その他 | 5人 (6.5%) |
| 内訳：授業+家では気が向いたとき (+テスト前) | 4人 |
| 寝るときに英語をBGMで流しながら寝る | 1人 |

質問2 音読をしている時の自分のレベルは。

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| a. CDより遅い、又はCDのスピードについていくのがやっと | 18人 (23.4%) |
| b. CDと同じくらいのスピードで声に出して読める | 38人 (49.4%) |
| c. CDに合わせて切れ目、発音、内容などを意識しながら読める | 9人 (11.7%) |
| d. 授業で習ったことなら本を見ないで程度シャドーイングできる | 10人 (13.0%) |
| e. 初見の英文でもある程度シャドーイングできる | 1人 (1.3%) |
| 無回答 | 1人 (1.3%) |

質問3 音読は暗記・リスニング・速読にとって大切だと思いますか。

- | | 暗記 | リスニング | 速読 |
|---------|-------------|-------------|-------------|
| a. はい | 54人 (70.1%) | 53人 (68.8%) | 59人 (76.6%) |
| b. まあまあ | 18人 (23.4%) | 19人 (24.7%) | 14人 (18.2%) |
| c. あまり | 4人 (5.2%) | 5人 (6.5%) | 4人 (5.2%) |
| d. ぜんぜん | 0人 (0.0%) | 0人 (0.0%) | 0人 (0.0%) |
| 無回答 | 1人 (1.3%) | 0人 (0.0%) | 0人 (0.0%) |

質問4 Lesson6 (733語) を読んだとき (黙読) の速さを教えてください。

- | | | |
|-------|----|-------------------|
| 最初の授業 | 平均 | 7分 1秒 (107.1語/分) |
| 最後の授業 | 平均 | 5分 33秒 (137.6語/分) |

【アンケート2】

○1分間スピーチについて

質問1 スピーチを作ったり発表したりすることで英語力が付くと思うか。

①そう思う	41人 (51.9%)	②ややそう思う	28人 (35.4%)
③あまりそう思わない	2人 (2.5%)	④そう思わない	0人 (0.0%)
⑤まだやっていない	7人 (8.9%)	無回答	1人 (1.3%)

質問2 スピーチを聞くことで英語力が付くと思うか。

①そう思う	26人 (32.9%)	②ややそう思う	49人 (62.0%)
③あまりそう思わない	4人 (5.1%)	④そう思わない	0人 (0.0%)

質問3 質問1・2で③④と答えた人へ、なぜそう思うか。

質問4 1分間スピーチについて、感想や思ったことを自由に書いてください。

○感想・作文プリントについて

質問5 添削までたどり着いたか。

①毎回	13人 (16.5%)	②ほぼ	21人 (26.6%)
③たまに	38人 (48.1%)	④一度もない	7人 (8.9%)

質問6 意欲的に取り組んでいるか。

①そう思う	18人 (22.8%)	②ややそう思う	31人 (39.2%)
③あまりそう思わない	25人 (31.6%)	④そう思わない	4人 (5.1%)

質問7 英語力がつくと思うか。

①そう思う	43人 (54.4%)	②ややそう思う	35人 (44.3%)
③あまりそう思わない	0人 (0.0%)	④そう思わない	0人 (0.0%)
無回答	1人 (1.3%)		

○その他

質問8 教科書の解説、大量の音読、1分間スピーチ、Lessonの感想・作文プリント以外に、授業中にどんな活動をすれば英語力が付くと思うか。(複数回答あり)(たとえば、本文の内容について英語でグループ・ディスカッションするとしたら、②と④に答えてください。)

①ペア・ワーク	7人 (8.9%)
②グループ・ワーク	14人 (17.7%)
③単語熟語小テスト	44人 (55.7%)
④本文の内容に関することを英語で話す	23人 (29.1%)
⑤本文の英語要約	33人 (41.8%)
⑥本文の内容と似た内容を読む	15人 (19.0%)
⑦先生の「英語での」雑談	15人 (19.0%)
⑧今で十分	9人 (11.3%)
⑨その他	1人 (1.3%) 「歌」

7 成果と課題

(1) 仮説1の検証（アンケート1より）

質問4の結果を見る限り、授業中に複数回のオーバーラッピングからシャドーイングへと音読練習の手順を踏んだ結果、速読できるようになっている。本実践後の Lesson 7（847語）の最初の授業時に測定した黙読の速度は平均112.5語/分で、Lesson 8の最初の授業時の黙読の速度は平均108.4語/分であった。入学したころの速度がおおよそ60語/分だったことを考えるとずいぶん速くなったのだが、ここ最近では110語/分を維持している。今後とも記録を取り続けていこうと思う。

右図は質問2と質問4、そして Lesson 7の黙読の速度の関係を示したものである。音読がうまく

できる生徒、シャドーイングができる生徒の方が速く読めるということが数字で現れた。しかも「c」と「d」では、最初の黙読の速度こそは大きく変わらないが、その課の最後、そして次の課での上達度合いが大きいのがはっきり表れている。生徒にすぐにこの結果を示したところ、音読の声が大きくなったように思われる。

【アンケート1】 質問2	人数	L.6 最初	L.6 最後	L.7 最初
	人	速度（語/分）		
a（CDについていくのがやっと）	18	100.3	117.7	103.6
b（CDについていける）	38	104.5	137.0	111.6
c（切れ目・発音・内容を意識できる）	9	118.3	145.6	117.0
d（本文のシャドーイングできる）	10	118.7	165.3	133.1
e（初見のシャドーイングできる）	1	146.6	209.4	145.2
無回答	1			
全体	77	107.1	137.6	112.5

そこで、まず「d」を目指し、それから3年生までには「e」ができるようになるのを目標にさせた。

(2) 仮説2の検証（アンケート2より）

「2 生徒の実態」で示したアンケートでは、スピーチをしたくない生徒が3分の2ほどいたが、英語力が付くかという質問に対しては、質問1、質問2とも9割の生徒が前向きな答えをだした。やりたくはないものの、英語力は付くということを実感しているようだ。

質問5～7の、授業の感想・作文プリントの課題については、意欲的に取り組んでいる生徒が6割程度いる。そして、ほぼ全員が英語力が身に付くことを実感しているので、今後とも続けていきたい。

(3) 今後の課題

おおむね仮説1、2に関しては妥当であると考えられるが、いくつかの課題は残っている。

ア スピーチについて

アンケート2の質問1と2で、「①そう思う」「②ややそう思う」の内訳にずいぶん差がある。質問3及び質問4の自由記述回答を見ると、発表者の声の大きさや、聞き手の英語力がその原因であると考えられる。

今後、単に前に出てスピーチをさせるだけでなく、相手にうまく伝わるような声の大きさ・スピード、そして適切な語彙の使い方も意識させていきたい。

イ 授業の感想・作文プリントについて
本来、これらを授業中に取り寄せ、発表させるのが理想かもしれないが、本校の方針

【アンケート2 自由記述回答】

質問3

- ・声が小さい・聞きとりにくい
- ・早口・間がほしい
- ・知らない単語・難しい単語が多く出てくる
- ・理解できない・分からない
- ・まだリスニング力がない・実力不足

質問4

- ・相手に分かりやすく伝えるのは難しい・大切
- ・相手に興味をもってもらえるような話をするのは難しい
- ・声の大きさが大事だと思った
- ・発音やアクセントに気をつけてやっていきたい
- ・いろいろな単語や文法が思いだせるからよい

として、1つの Lesson に5時間以上かけられないため、課題にしているのが現状である。課題にしてしまう以上、英語力が身に付くと実感しながらも意欲的に取り組めない生徒が出てしまう。何とか意欲を出させるために、添削をしたり、定期考査においても、授業の内容に関する自由英作文をさせたりしているが、やはり、ある程度授業で取り組ませることも必要である。

ウ その他

アンケート2で、現在授業や課題で行っていること以外に授業中にどんな活動をすれば英語力が付くと思うか質問したところ、意外に「③単語熟語小テスト」の回答が半数を超えた。生徒たちは読むことで暗記しているが、つづりや正確な意味には不安を感じている。また、「⑤本文の英語要約」や「④本文の内容に関することを英語で話す」にも、多くの回答が得られた。

8 おわりに

本研究で取り上げたシャドーイングなどの音読やスピーチなどの言語活動は、単元構想に組み込んで年間を通して計画的に実施している。今後は、年間学習指導計画とCAN-DOリストを関連付けて作成することにより、他の言語活動とのバランスを取ることや、適切な評価について検討する必要がある。

また、第1学年の英語Ⅰの授業では音読活動を授業の中心に置いて、英語に慣れることと速読ができるようになることを目標にしているが、第2学年の英語Ⅱやライティングの授業では、アンケート2で生徒が回答したことを考慮に入れて、生徒が自分の考えや意見を発表するなどの自己表現活動を中心とした単元構想を立て、さらなる授業改善を進めていきたい。

参考文献等

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成21年3月告示
- 文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』
- 愛知県総合教育センター(2005)『授業の手引き 高等学校 英語』
- 小金沢宏寿(2003)『リスニング力アップのためのシャドーイング活動』英語教育 2003年9月号
- 千田潤一(1995)『使える英語をモノにする本』国際コミュニケーションズ
- 豊島澄子(2006)『リーディングの授業における音読に関する研究ーリスニング力・速読力の育成を主眼においてー』平成17年度県立学校長期研修研究報告書(愛知県総合教育センター)
- 宮迫靖静(2003)『データから見た音読の効果』英語教育 2003年9月号

【資料1 音読レベルプリント】

音読の記録

音読（ここではCDに合わせて読むこと＝オーバーラッピング）をしているときの自分のレベルを a～d で書いていき、上達の記録をとってみよう。

a. CDについていくのがやっと

ついていけるようになるために練習あるのみ。

b. CDに合わせて声に出して読める

しばらくは重ねて読めばいいけど、だんだんcを意識してみよう。

c. CDに合わせて切れ目、細かい発音、内容などを意識しながら読める

切れ目のチェックは何度も音読の練習をすればそのうち感覚で分かるようになる。そうすれば、初めて見た文でも文の構造を把握するのに苦労しなくなる。

また、内容が意識できれば、リスニング力がずいぶんついてくるようになるはず。黙読で同じことをすれば、読むスピード倍増！（そもそも、読むスピード以上の英語は聞き取れないから、読むこととリスニングには密接な関係がある。）この段階で本文を何回も読んで、
そろそろ暗記できている文もあるのでは？←テストで点が取れる！！

d. 本を見ないようにしてある程度シャドーイングができる

これができるようになれば、リスニングはほぼ完璧。読むのも 150wpm(=words per minute)も完璧♪実は同時通訳の訓練法でもあります。

	1回目	2回目	3回目		1回目	2回目	3回目
1-1				6-1			
1-2				6-2			
1-3				6-3			
1-4				6-4			
2-1				7-1			
2-2				7-2			
2-3				7-3			
2-4				7-4			
3-1				8-1			
3-2				8-2			
3-3				8-3			
3-4				8-4			
4-1				R-2			
4-2				9-1			
4-3				9-2			
4-4				9-3			
R-1				9-4			
5-1				10-1			
5-2				10-2			
5-3				10-3			
5-4				10-4			

Lesson6

How many words-per-minute can you read?

(from p76 to p83—733 words in total, excluding titles and a table on page 81)

It took _____ min. _____ sec.① to read the whole passage.

Divide 764 by ①(convert into seconds), and you get _____②

Multiply ② by 60, and you get _____③

You can read ③ _____ words per minute (wpm).

WORD HUNT ~ Find the words that have the following meanings. ~

Introduction & Part 1

いつでも (2語)

~と思う(sで始める)

健康診断

成績

順番をつける

~に先だって/~の前に
(2語)

その代わり

変な/奇妙な

結局

予定に入れる

信念

~に従って (2語)

次の(こと)

封筒

Part 2

~に基づいて (4語)

~による (2語)

優先順位

~のことを聞く (2語)

成績/出来

~と関係がある (4語)

整理する

状況

Part3

返事をする

~に直面する

活動

成績がいい (2語)

道理にかなう (2語)

学期

すぐに (2語)

ムダ

Part 4

ガン

成績が悪い (2語)

同時に (4語)

~にもかかわらず

実りある

手術

結果として

~を発見する

経験する

しっかり取り組む (2語)

必ず~する (2語)

否定

胃

【資料3 1分間スピーチ説明プリント】

Class _____ No. _____ Name _____

About "One-minute speech"

- ・テーマはなんでも OK です。「世間話」で十分です。
- ・ただし、条件として、
「1週間以内に新しく習った単語または表現（文法事項／構文）を3個以上使うこと」
「1分以内になるようにすること」
- ・あまり難しいことを話さず、分かる範囲のことを言おう。事前に質問に来てくれても OK。
- ・ゆっくり、大きな声で話そう。みんなにきいてもらうことを意識しよう。

テーマの例と表現

趣味について

I like～. (好き) I love～. (めっちゃ好き) I can't live without～. (ないと生きていけない)
I often go to～. (～によく行く)

学校について

I'm going to belong to the ~ club. (～部に入ろうと思う)
I belong to ~ club (入部後は「～部です」)
I want to be ~ in the future. (将来～になりたい)

ふだんのできごと

I enjoyed it very much. (すごく楽しかった)

その他使える表現

To tell the truth, (実はね..., 正直言うとね...) Frankly, (ぶっちゃけ～)

例

I like visiting Korea. But I'm not so-called "Hanryu." I go to Korea about four times a year. I eat Korean food, buy cosmetics and clothes and so on. To tell the truth, I went to Korea last weekend. I enjoyed Kim Gunmo's concert very much and ate kalbi and yukhe. They were very very yummy and I was moved to tears. (Toyoshima)

Questions の例

スピーチした人が、クラスみんなに大きな声できこう。3つぐらいで大丈夫です。

(スピーチした人がたずねるから、疑問文でも you ではなくて I です)

What do I like? (いつもすることをきくとき)

What did I eat yesterday?

What did I buy?

What club am I going to belong to?

授業中に答えるときは答えだけで大丈夫です。

One-minute speech

Date: (,)

Questions

【資料5 授業についての感想文及び新出表現を活用した作文の記入用プリント】

Write your own impression about Lesson () in English.

Make at least 5 sentences about things around you with words or phrases you learned in this lesson.

Class No. Name